



期間:2011年2月27日まで

## 市の4つの美術館における4つの展示

ルガーノ市で「日本-NIPPON 神話と現実、日出する国の芸術と文化」が催されている。初の試みとして市内のすべての美術館、その他各地でも日本の芸術と文化を展示、紹介している特別展である。

Il Giornale del Popolo (ジョルナーレ デル ポポロ新聞社)もこのプロジェクト「日本-NIPPON」に参加し、美術館内だけに留まらず、町中を巻き込んで西洋と東洋の出会いに貢献することにした。異文化交流には、いろいろ手段があるが時には、当社の新聞の日本語で書かれた第一面のようにショッキングなものもあってよいだろう。

4箇所の特別展を巡って日本の旅に出よう。ヴィラ・マルベンサータには「アラーキー」の展示がある。現代の日本人写真家としては大変名高い荒木経惟(のぶよし)の、ヨーロッパでは貴重な回顧展のひとつ「Love and Death「愛と死」である。妻の生と死に捧げられた有名な自叙伝シリーズの他、長年の病気と闘いながらも見つめていった「花」「食べ物」「空」を題材にした大作が展示されている。代表作品である女性ヌード写真も見逃せない。

一方、ムゼオ・カントナーレ・ダルテとヴィラ・チャーニの庭園には「時と空間で描く」と題した具体派の作品展がある。

1954年から1972年まで日本で活動した具体派グループ、その解散からほぼ40年を経て、アクションペインティングや演劇・パフォーマンス、インスピレーションと多様な作品を展示することで、日本の芸術表現を変えた運動に敬意を示すものである。通常は、日本の美術館でしか見られない伝説的な作品に直撃触れる事が出来る稀な機会である。

次に、ムゼオ・デレ・クルトゥーレでの春画展で江戸時代(1603年-1867年)を訪ねよう。

性愛の秘戯を題材にした版画である春画は驚くほど自然な描写で当時の日本の風俗や哲学を見せてくれる。春画が文字通りの訳で「春の描写」という意味であるのも納得できる。主要な浮世絵師のほとんどが春画を手がけ、当館には磯田湖龍斎、歌川国盛、鳥居清長、喜多川歌麿、葛飾北斎、歌川広重などの作品が展示されている。

最後にヴィラ・チャーニで「驚くべき完璧さ-1860年から1910年の間の日本写真展」を見る事にしよう。東洋と西洋の出会いをテーマに、日本人と西洋人の写真家が撮影した日本の映像を比較している。一見非常に異なる二つの文化を対照させる事で興味深く考えさせてくれる。この東洋への旅は、他の展示を見て来て明らかなるように1910年の時点で終わってはいない。

詳細は8ページに

# GIORNALE del POPOLo

スイス・イタリア語圏日刊紙

2010年12月16日本曜日 本社ルガーノ 創立八十五年289号 / 2フラン +

ルガーノ 日出する国の芸術と文化特別展

## 日本語記事で 美術館の扉を開く

「日本-NIPPON  
神話と現実」  
日出する国の  
芸術と文化  
日本展が新聞で家に  
やって来る。  
「芸術は、美術館内だけに  
留まらず、新聞は慣習  
だけに囚われるべき  
ではない。」

詳細は8ページに



詳細は3ページに

### 読者の皆様、「ご心配無用」

ティチーノ州に日本の武士が攻め込んで来たのでもビオッジヨにある当社印刷所の輪軸印刷機が狂ってしまったのでもない。「日本-NIPPON 神話と現実、日出する国の芸術と文化」企画チームが着想し、当新聞社が賛同したものである。ルガーノ市全ての美術館や、その他各地で日本の芸術や文化を展示、紹介している特別展に、普段は美術館に足を運ばないという方々にも興味を持ってもらおうというのが狙いでいる。日本文化の根柢は太古にありその源(みなもとは)は、現在も伝統に受け継がれ日本人の芸術観念と信仰に根強く浸透している。にもかかわらず日本人観光客の方がずっと頻繁に我々の文化を見物に訪れ魅了されて帰って行く。ならば、我々も(2月27日まで)時間を見つけてルガーノ市文化課などで「カトレーラ」が、ティチーノ州にどんな日本を紹介してくれるのかを確かめに、またその素晴らしい芸術と文化の発見に踏み出そうではないか。(クラゲオ ノア)

日本展についての詳細は、新聞内にて記載。



詳細は8ページに

前衛美術

### 自らの人生、そして 肉体と精神の 写真

肉体、自然、愛、そして死に到るまでの人生に触れながら、撮影を通して荒木は日常と普遍を混ぜ合わせることに成功した。アンティミストであり、自伝的な作品を撮る荒木は、悲劇的な妻の死を愛の記録で綴るフォトリリー「感傷の旅/冬の旅」の中でその頂点に達している。現代の日本人写真家として大変名高い荒木の話題作をヴィラ・マルベンサータ内のムゼオ・ダルテで全面的に展示。見逃せない写真展である。

詳細は8ページに

版画  
春画 江戸時代の  
エロティシズム  
ムゼオ・デレ・クルトゥーレで  
2011年2月27日まで

[www.mcd.lugano.ch](http://www.mcd.lugano.ch)

写真  
荒木 「愛と死」  
コンテンポラリー写真  
ムゼオ・ダルテで  
2011年2月20日まで

[www.mdam.ch](http://www.mdam.ch)

東洋への旅

### 写真に出会う日本 西洋人のイメージを かきたてる

日本に写真術が入ってきた時期は大きく分けて二度ある。最初は17世纪に遡り、西洋が開拓する以前で商取引のために許された唯一の通路である出島にオランダ人が上陸した時だ。二度目は19世纪で、大勢の西洋人が相次いで来日した時である。写真家フェリーチェ・ペアートもその中のひとりである。日本人は直ちに写真術の秘密を解き明かし、西洋人よりも優れていることを示している。

詳細は8ページに

スイスと世界

本部、経理部、総合編集部  
Via San Gottardo 50, c.p. 527, 6903 Lugano  
電話番号 091 922 38 00 ファックス 091 922 38 05  
メールアドレス [redazione@gdp.ch](mailto:redazione@gdp.ch)

ルガーノ編集部  
Via San Gottardo 50, 6903 Lugano 電話番号 091 922 38 00  
ファックス 091 922 38 00 メールアドレス [lugano@gdp.ch](mailto:lugano@gdp.ch)

ベルニノ編集部  
Via Lavizzara 21, 6950 Mendrisio 電話番号 091 646 41 29  
ファックス 091 646 78 79 メールアドレス [mendrisio@gdp.ch](mailto:mendrisio@gdp.ch)

ペルシーナ編集部  
Via Bellinzona 10, 6812 Bellinzona 電話番号 091 825 53 55 ファックス 091 825 53 56  
メールアドレス [bellinzona@gdp.ch](mailto:bellinzona@gdp.ch)

ロカルノ編集部  
Via Bellinzona 10, 6812 Bellinzona 電話番号 091 759 73 20 ファックス 091 759 73 21  
メールアドレス [carcano@gdp.ch](mailto:carcano@gdp.ch)

ベルン編集部  
電話番号 031 311 68 81 メールアドレス [berna@gdp.ch](mailto:berna@gdp.ch)

スポーツ編集部  
電話番号 091 922 38 34 ファックス 091 922 38 05  
メールアドレス [sport@gdp.ch](mailto:sport@gdp.ch)

定期誌担当室  
電話番号 091 922 38 01 ファックス 091 922 38 19  
メールアドレス [abbonamenti@gdp.ch](mailto:abbonamenti@gdp.ch)

フリーダイヤル番号  
0800 55 35 70

### ボネッフのいたずら

ルガーノのジョルジョ殿は、日本の文化使節団をお迎えなされたのじや、



俳句

### 街中で出会う、「生」 の一瞬を捉えた詩句

見慣れた日常に新鮮さを与える詩句

エレオーネ ブルグワン筆

美術館から詩句のある道に出よう。ここ数ヶ月、町中に一連の俳句が掲げられている。アイデアは単に道ごとに一句掲げて人を驚かせようというのではない。むしろ我々の仕事のリズムと詩の呼吸との出会いを作ることなのだ。さらに詩句が俳句となれば、遠い世界への想いを誘い、精神的なものを(アイロニーも含め)日常の中に溶け込ませてしまう言葉と生の美意識を深く考えさせてくれる。

映画館イリデ

### 「誰も知らない」 日本映画上映会 最終回

12月21日、火曜日20時半から上映  
1988年に実際に起った事件をモチーフにして作られた映画。東京のあるアパートで、母親と暮らし始めた4人の兄弟。しかし3人の姉弟の存在は大家にも知られていなかった。ある日母親はメモを残し失踪。この日から子供4人だけの生活が始まる。是枝裕和監督(2004年)

詳細は3ページに



前衛美術

### 具体派「時と空間で描く」

ムゼオ・カントナーレ・ダルテで

2011年2月20日まで

[www.museo-cantionale-arte.ch](http://www.museo-cantionale-arte.ch)